

個の把握に重点をおいた授業づくり研究部

研究主題

個の把握に重点をおいた授業づくり

稲	盛	信	吾	
粟	飯	か	り	北秋津小学校教諭
田	原	を	人	安松小学校教諭
織	中	裕	隆	上新井小学校教諭
鈴	部		恵	椿峰小学校教諭
関	木	優	子	林小学校教諭
	田			狭山ヶ丘中学校教諭

研究協力
千葉大学助教授

藤 川 大 祐

担当指導主事

忽	滑	谷	美	恵	子
牧	野		和	江	
山	口		勝	彦	

個の把握に重点をおいた授業づくり研究部 研究報告（概要）

研究主題 個の把握に重点をおいた授業づくり

概要説明 個々の児童生徒の気づきを蓄積し、その中から変容させたい児童生徒（位置づけた児童生徒）を抽出する。位置づけた児童生徒と周りとの関わりを通して、変容させることをテーマに授業づくりを進めた。また、その児童生徒が他と関わることで、周りの学びの姿がより見えてくることをねらった。

本研究の【キーワード】

○個 ○関わり ○気づき ○位置づけた児童生徒
○白紙座席表 ○授業メモ ○場づくり（リソース）
○ストップモーション方式による授業記録

I 研究主題

個の把握に重点をおいた授業づくり

II 主題設定の理由

学校生活を通じて、現代の教育に求められることは、児童生徒一人一人が自己実現できる力を授業の中で育むことである。このためには、「個」をとらえ、それに対応した教育の仕組みを創ることが急務である。私たち教師の教育課題は、一言で言うと「個を見つめ、個を育てる」ということに尽きる。

しかし、一口に「個を見つめる」と言っても、「個」の何を対象とするのか、どのような方法で「見つめる」のかと言った点については、様々な解釈の仕方がある。

そこで、本研究部では、「個を見つめる」ための手立てとして、

- ・意図的に児童生徒を抽出する。（以下、「位置づけた児童生徒」と呼ぶ）
- ・位置づけた児童生徒の授業での様子を詳細に記録する。
- ・位置づけた児童生徒と他の児童生徒の関わりを記録する。

といった方法をとることとした。

また、「個を育てる」教育を実践するために、

- ・位置づけた児童生徒の変容を図るのに適した教材を選択する。
- ・位置づけた児童生徒が単元を通して、何に気づき何を感じ取るかを予想し、授業を組み立てていく。
- ・位置づけた児童生徒が他の児童生徒と関わり合う中で変容していくような場を設定する。
- ・位置づけた児童生徒が目標を達成できたかの観点から授業を振り返り、その後の授業づくりへと繋げていく。

ことを行った。

さらに、位置づけた児童生徒を手がかりに周りにいる児童生徒の学びの姿も捉えられると考えた。

本研究部では、以上の観点で「個を見つめ、個を育てる」ことにより、児童生徒一人一人が自己実現できる力を授業の中で育むことをねらい、個の把握に重点を置いた授業づくりの追究を研究主題と設定した。

III 研究の方法

- 1 気づきの蓄積
- 2 位置づける児童生徒の決定
- 3 指導計画づくり
- 4 指導案の検討
- 5 授業の実施
- 6 ストップモーション方式による協議
- 7 授業記録の作成

IV 授業研究の実際について

- 1 第1回 授業研究 所沢市立小学校 第4学年 理科「空気や水をとじこめると」

(1) 位置づけた児童生徒 (A) について ※以下ここで位置づけた児童をAと呼ぶ

① 位置づけた理由

Aは、まじめで責任感が強い児童である。学習に対する姿勢も意欲的で、課題には粘り強く取り組む。しかし、他の児童に対して自分の考えを伝えたり、相手の話を聞こうとする点については、消極的である。そこで、Aが他の児童と関わり合うなかで、自分の考えが認められるといった成功経験を積むことが「個を育てる」ことにつながると考え、位置づけた児童生徒とした。

② 児童生徒の様子 [] は意外に感じた様子

日時	位置づけた児童生徒の気づき
6/30	「立って踊ろう。」(音楽鑑賞教室で演奏していたバンドのメンバーからの呼びかけ) 恥ずかしそうに立つが、踊りはしない。周りの児童のほとんどは、とび跳ねていた。
7/4	「留守番中に火事が起こりました。どうします。」(社会) 「外に出て大声で周りの家に知らせる。」 「どの方法がいいか近くの人と話し合ってみましょう。」 話し合わない。隣の子はちらちら顔を見ていたが、あきらめて後ろの子と相談。
7/6	「自分達で作った梅ジュースのお味は？」(総合) 「ちょーおいしい。」なんか変な味という児童が多い中、周囲に聞こえるほどの大きな声で。
7/11	「松井さんがしたことはいいことでしょうか？隣の人と話し合ってみましょう。」(国語・白いぼうし) 隣の子は話しかけようとしていたが、自分のノートから目を離さず、話し合わない。
7/13	(図工で絵を描きながら) 「走っているように見える？」隣の席の子に自分から話しかける。
7/18	(総合で観察していた蚕が死んで床に落ちてしまい、触れずにいた男子児童に) 「しっかりしなよ！ 男のくせに！」

9/1	「今日のクラスレクでやりたいことを近くの人と相談してください。」(朝の会) 班のメンバーと笑顔で相談。
9/4	「ヘチマの花を観察します。準備のできた子から移動しましょう。」(理科) 一人で校庭へ移動。観察は熱心に行う。
9/5	「三富についてインターネットで調べよう」(総合) ペアの児童が主にパソコンを操作し、自分はノートにメモを取る活動が中心。ペアの児童がややはめを外し気味だったため、嫌そうな表情をうかべるが、言葉でのやり取りはない。
9/6	「練習のときみたいにボールをさわってごらん。」 (体育・ソフトバレーボールの試合) 無言でうなずくが、コートの後方でほとんど動かないままゲーム終了。自チームが得点したときには、拍手をする姿も。
9/7	「外に行って遊んでおいで。」(30分休み) 教室からは出たが、図書室に行く。
9/8	「習い事をしているの？」(校長との会食) 「△△も、××も次の日疲れちゃうから辞めた。」 「空気を閉じ込めて遊んでみよう。」(理科) ビニール袋に空気を閉じ込め叩いて遊ぶ。女子児童Dと二人で遊ぶ。 「別の遊びもできるかな」(理科) 「えー、できないよー。」

(2) 単元設定の理由

理科の学習は、児童の既存している様々な「自然についての素朴な見方や考え方」を、観察、実験などの問題解決の活動を通して、少しずつ科学的なものに変容させていく営みである。問題解決の能力を習得するためには、「問題解決の過程や結果について相互に話し合う」中から、結論として「科学的な見方や考え方」をもつようになる過程が必要である。つまり、表現(発表・話し合い)を通して、児童一人一人の「問題解決の過程が相互にかかわる場面」が重要になる。そこで、以下のような場を設定することで、Aが変容していくことをねらい、単元を設定した。

《導入場面において》

提示した事象に対し発せられた児童の言葉を取り上げ、さらに別の児童に投げかけ、言葉をつなげていくことで、みんなで学習課題を設定する。

《学習問題に対する予想を立てる場面において》

問題に対する個人の考えを互いに発表し合い、自分の考えと他の児童の考えを比較し、参考にしたり考え直したりする場を設ける。

《実験を行う場面において》

自分で行った実験の方法や結果を他の児童に伝えることで、検証や再考察する場を設ける。

《実験結果を出し合う場面において》

実験結果を出し合い、結果の考察をする場を設ける。

(3) 本時の指導

学習活動	指導上の留意点	位置づけた児童の予想される反応	場の設定
1 学習課題を知る。			
空気鉄砲の秘密を探ろう。			
<p>2 空気鉄砲を作り、玉の飛び方を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想をたて話し合う。 C: くっついていると飛ばない。 C: 離れすぎていると飛ばない。 C: 空気がいっぱいあるほうが飛ぶ。 ・3つの方法を試してみる。 C: 後玉が筒の後ろにあるときが一番飛ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○空気に着目させるため、前玉と後玉がついた状態、後玉が筒の真ん中にある状態、後玉が筒の後ろにある状態の3つについて予想を立てさせ、活動を焦点化する。 ○前玉と後玉の位置以外の条件を変えずに実験するように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想を発表できない。 ・一人で実験に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰と同じ考えかを表明させることで話し合いに参加させる。 ・自分の意見が言えたことや他の児童の意見を参考にできたことを認め、活動に意欲的に取り組めるようにする。 ・活動の中で発見したことを見逃さずに認める。他の児童に伝えるよう促す。
<p>3 空気鉄砲を自由に操作し、玉の飛び方を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> C: 押し棒を勢いよく押すと玉がよく飛ぶ。 C: よく飛ぶときは、いい音がする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童同士が発見を教え合うことで、それぞれの活動が活性化するようにする。 ○発見したことは、ホワイトボードに書き、まとめの話し合いの際に使用する。 ○活動の様子をよく観察し自分なりの発見 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で実験に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発見したことは、他の児童に検証してもらい、ホワイトボードに記入する。 ・他の児童の発見を確かめられた場合についても、その態度を認め、他の児童との関りを深めさせる。

<p>C：前玉を指で押しえておくとよく飛ぶ。</p> <p>C：押し棒を押すと、手ごたえが強くなる。</p>	<p>があった児童を認め、多様な意見が出てくるようにする。</p>		
<p>4 発見したことを、わかったことを発表する。</p>	<p>○対立するような意見が出てきた場合は、実際に実験を行い確認する。</p>	<p>・発表をためらう。</p>	<p>・自分の考えを学級全体から認められることで自信が得られるよう、発見したことを積極的に取り上げる。</p>
<p>5 空気鉄砲の玉が飛ぶわけを考える。</p> <p>T：空気鉄砲の玉は、何の力で飛ぶのでしょうか。</p> <p>C：空気の流れ。</p> <p>T：空気の流れで飛ぶことを確かめる方法はないのでしょうか。</p> <p>C：押し棒をゆっくり押し。</p> <p>C：水の中でやってみればいい。</p>	<p>○自分の活動を振り返らせ自分の考えに理由づけができるようにさせる。</p> <p>○前玉が後玉と触れないことを確認させる。</p> <p>○空気で玉が押し出されていることを、水槽を使って確かめさせる。</p>	<p>・自分の意見を発表することをためらう。</p>	<p>・誰と同じ考えかを表明させることで話し合いに参加させる。</p> <p>・自分の意見が言えたことや他の児童の意見を参考にできたことを認める。</p>
<p>6 本時のまとめをする。</p> <p>C：空気鉄砲は空気の流れで玉を飛ばす。</p>	<p>○自分なりに本時の学習をまとめられるように、掲示物やホワイトボードなどで活動を振り返らせる。</p>	<p>・自分なりにまとめようとする。</p>	<p>・まとめたことを他の児童と伝え合わせるようにし、考えを深めさせる。</p>

ストップモーション方式授業記録とは、授業を記録したビデオを見ながら授業の検討会を行なうものである。出席者は気になったところでテープを止め、意見を述べたり、授業者の意図を確認したりする。これを授業記録に直したものが、ストップモーション方式授業記録である。この授業記録では、授業の流れが書かれる部分と「ストップモーション」と呼ばれる記録者の解説コメントが書かれる部分から成り立っている。記録者は、授業時に分刻みに記録した「授業メモ」を確認しながらまとめていく。

今日のねらいをよむ。

挨拶のあと、教師の説明。

教師の説明をよく聞く。

ボードの図をじっと見ている。

今日のねらいを読む。

『空気鉄砲のひみつをさぐろう。—ア前玉と後玉がくっついた時、

イ後玉が筒の真ん中にある時 ウ後玉が筒の後ろにある時—どれが一番飛ぶでしょう？』

教師の

『予想は？』

に手は挙げなかったが、

『イだと思う人？』

に手を挙げた。隣のDと少ししゃべる。

「アだと思う」と発言している児童のことよく見て、聞いている。Dと少し話す。

教師の手元をよく見ている。

「イ」について説明している子の話を聞いてニコリと笑う。

もう一度、教師が予想に手を挙げさせたが、「イ」に挙げる。考えは変えない。

教師の

『後ろを向いてください。』

に、どこに座るかよくみている。説明もよく聞いている。

立ってみている。

走って、自分の空気鉄砲を取りに行く。

他の子はどんどん飛ばす。当人はなかなかうまくいかない。

前に1M飛んだ。後ろの黒板にはってある説明を見て、場所を確認して、玉を詰める。

やはり前に1M飛んだ。うまくいかない。

ウにしたら2M飛んだ。次3M。戻ってDに話しかけた。

(ここまで13分)

ストップモーション

特定の児童との関わりが十分とれていた。しかしその他の児童との関わりは少なかった。この時点で本時の目標達成と考えられる。一人で玉を飛ばしていたとき、他の児童の玉と入れ替わってしまったところがあったので、関わりを広げるきっかけがあったと思われる。

黒板の前でDと話す。飛ばしてみせる。

「ウだ！」

と、にこやかに隣の子と話す。

『ウがいちばん飛んだ人?』に手を挙げた。

(ここまで16分)

ストップ モーション

Aは、空気鉄砲の玉の飛び方をイからウに変えていた。どこで、自分の考えが変わったのかを話す場があると、そこから議論や話し合いが生まれたかもしれない。授業者はなぜ意見を変えたのか、もっとゆさぶるべきであった。

よく教師の説明を聞いている。じっと集中。

Dと他の児童に説明している。

「どうやるかわかんないよ!」といいながら飛ばしてみせた。

「2つとも飛ぶよ。」D「いいじゃん!」男の子もそばにいて話しかける。

Dと話している。

「書いてくるね」と言って、ボードをとって来る。

書いたボードを立てかけた。

他の児童と話す。でも、すぐ自分の世界に入る。

筒を2つくっつけている。

Dと一緒に、二つの空気鉄砲をくっつけ、両側から押すと、空気が抜け、玉は飛ばないことを発見。最初、友だちではなく教師のところへ、そのことを話に行った。(ここまで26分)

ストップ モーション

最初に、友だちのところへ行けなかったというところから、この2人は学級の中で周りの友だちとの距離があるように思われる。

Dが教師によく話しかける。本人も聞いていてよく笑う。Dと一緒に他の児童に説明する。

「黒板に書きに行こう」とDに言われる。

黒板に筒の絵を描いている。

『もう(絵は)いらないよ』

D、教師に、「ちょっと待ってください。描かせてください。」描いてくる。

Dと一緒に座る。

待っている間、Dとボードを見て話す。

『発見したこと、わかったことを発表してください』

他の児童の発表をよく聞いている。

Dと二人でひそひそ話している。

『このボードで発表してくれる人?』

本人、前に出て、大きな声で説明。

(ここまで44分)

ストップ モーション

ホワイトボードで発表のとき、Aのボードにはたくさんの名前が書かれてあったのに、Aだけが出てきて発表。まだ他の児童との関わりの薄さを感じられた。

再び他の児童の説明をよく聞いている。他の人の発表で『発見した人?』に挙手。

(ここまで47分)

ストップ モーション

Dと手を挙げて前に出て行き発表。Dが実際に、二つの空気鉄砲をくっつけ、両側から押し、空気が抜けると玉は飛ばないことをやってみせる。周りの反応は今ひとつ。

『他の人たちは飛ぶことをやっているけれど、君たちは飛ばないことをやっていて面白いね』と授業者が言え、随分違ったはず。児童が見つけた課題をどう伸ばせるかどうか、というのが理科の本質であろう。

再び他の児童の説明をよく聞いている。

2つ飛んだ説明のときは、手を挙げた人を見ていた。

手を挙げて発表。

「空気が戻ろうとして、玉が落ちる。」

「水の中でやれば」という児童の意見が出た。あらかじめ準備しておいた水槽で示範実験。

授業終了後、手伝いも意欲的であった。

(5) 今後の課題

- ・ Dと関わりをもてたことは、Aにとっての変容である。しかし満足することなく、さらに関わりを広げていくことが課題である。
- ・ Aを位置づけたことで、周りの児童の関わり合いがみえ、新たな学級の課題が明らかになった。

2 第二回授業研究 所沢市立中学校 第2学年 国語 「プレゼンテーション」

(1) 位置づけた児童生徒 (B) について ※以下ここで位置づけた生徒をBと呼ぶ。

①位置づけた理由

Bは、まじめに学校生活を送っている。授業中の私語や手悪さなどはないが、決して意欲的な学習態度とはいえない。疑問があっても、教師や周りに聞くことがない。仲間と関わって、課題を解決することもない。周囲に聞かれたり、指示されたりすると、殻を閉ざしてしまうこともあった。

以上のことから、Bが他人との関わりをもち、その中で自己主張ができるようになることを目指し、位置づけた生徒とした。

② 位置づけた生徒の気づき ■■■■■ は意外に感じた様子

日時	位置づけた児童生徒の気づき
6 / 1 5	掃除の時に、清掃担当として、分担表はできるが、班員に分担の指示ができない。口をきかない。班員と目を合わさない。
6 / 2 6	選択国語では「話す・聞く」中心の授業で、グループだと発表はできるが、一人だとやらなかった。
9 / 5	国語の班活動では一切話さない。(それ以前も話さなかった。)
9 / 6	ちょっかいをだされることは相変わらず多いが、自分と体力的に同等くらいの生徒には反撃できるようになってきた。(相手のワイシャツのボタンを引きちぎった。)

9 / 7	足が速いのを買われ、体育祭で800Mリレーの一人となる。 体育祭当日、「腰が限界です。」と担任に訴えてきたが、「君の代わりはいない」と言ったところ、頑張った。
10 / 19	道徳の授業では指名した問いに、「今、考えているので、あとで答えます。」 と言ひ、最後の方で、自分の考えを述べる事ができた。(葛藤教材。野球で、2-3で勝っている9回裏2アウト、2・3塁に走者のいる状況で、4打席連続して敬遠し続けた4番バッターに対して、自分がピッチャーだったら敬遠か勝負かどちらの立場をとるかという発問に理由付きで答えるもの。本人は「チームのため勝つことを選びたいので敬遠」と答えた。)
	合唱コンクールのための歌の練習の時にパートリーダーから「声が出てない」「口が小さい」との指摘。両隣に音がとれる生徒が移動してきて再三指導。本人は努力していた。
10 / 24	音楽の時間に直接、教科担当から「口を大きく開けなさい」とみんなの前で指導される。その話を聞き、担任が「君はよく頑張っている」と励ました。 大きな口で歌っていた。帰りの会で周りも評価していた。同日、選択国語のディベートでのリンクマップを、きちんと独自の考えで書けていた。(論題は「日本は動物園を廃止するべきである。是か非か。」)
10 / 25	国語の新しい班で、担任は本人が話すのを聞いてないが、同じ班員は、「本人がディスカッションに参加した」と言っている。
10 / 26	国語の授業でコンピューター室利用。本人はパソコンがかなりできるので、あちらこちらから、助けを求められていた。その都度、見てやっていた。
10 / 30	国語の授業で挙手。初めて手を挙げた。発問は「よいプレゼンとは何ですか。」 Bの答え「大きな声でわかりやすく発表することです。」しかし、その後の班活動ではあまり発言しなかったようだ。

(2) 単元設定の理由

Bは特定の友人とのみ会話をするだけで、周りとは、ほとんど関わりがとれない。4月から授業の中で小グループのディスカッションを繰り返していたが、ほとんど話し合いが成立しなかった。ここであえてプレゼンテーションという本人が最も苦手とする教材で学習することで、班の中で助け合わなければいけない状況を作り出すことにより、関わり方の必要性和意義を本人に認識してもらえると考えた。また、そうすることによって、「個を育てる」ことにつながると考えた。

《導入場面において》

本時は3番が司会であることを知らせる。またプレゼンテーションのボード作りをする事も認識させる。

《班活動の中で》

3番がしっかり司会をし、話し合いの中で、プレゼンテーションの構成やボードの担当を決め、作業を行う。

《まとめの中で》

班ごとに進行状況を発表する。

(3) 本時の指導

学 習 活 動	指導上の留意点	位置づけた生徒の予想される反応	場の設定
1 本時の流れを知る。	○本時のねらいと学習の進め方を確認する。	・自分が今日の司会だと知り緊張する。	・教師による意図的な4人班にする。司会は3番とする。
2 プレゼンテーションの構成・班員の役割について話し合う。	○より効果的な発表にするためにどういう工夫をしたらよいのかを話し合わせるようにする。 ○アンケートをとったり、辞書なども使ったりするようにアドバイスする。 ○司会の仕方について教える。 ○Bがすこしでも話したら、周りが認める雰囲気を作る。	・司会ができない。 ・周りの支援に対して、黙っている。 ・自分のボードも書けていない。	・他の班員が司会のアドバイスをする。 ・Bのつぶやきを班員や教師が拾い、認め、話をふくらませられるようにする。 ・アンケートの結果や辞書を使うことを勧める。
3 本時のまとめをする。	○各班の進行状況を4番に発表させることにより、自分の班の客観的状況を知らせる。	・自分のボードができておらず、発表することも考えられていない。	・他の3人の班員のボードを見せる。

(4) ストップモーション方式による授業記録

チャイムが鳴り、挨拶。

『102ページ開けて。今日はプレゼンテーションのボードを作らなくてはなりません。必要なものは、大丈夫?』

生徒は、落ち着いて聞いている。

『4人班になってください。』

生徒は、席を立ち、4人班を作り、着席。

『教科書102ページ開けて。ワークシートも見ましょう。』

生徒は、指示に従い教科書とワークシートを開く。

『今日は、3番が司会です。手を挙げて。』

各班、3番の生徒が挙手。

『3番、がんばって。』

『立ち歩いてもいいから、アンケートも取ってみましょう。』

各班、話し合いを始める。教師は、各班を回りながら、話し合いの様子を確認していく。今回Bは、3番で司会担当だが、発言せず。他の生徒が、話し合いをリードしていく。教師は、Bに声をかける。

『司会してる？ がんばって。』

Bは、司会の役割に戸惑っていたが、他の生徒が「アンケートを取ろうと思っている。」ことを伝える。

『どうするの？ じゃあ、そのアンケートを取るか聞いてごらん。』

Bは、「アンケートを取りますか？」と、班のメンバーに聞く。「取ろう。」と言う意見を受け、再び「どんなアンケートにしますか。」と問いかける。「一言で絆といえば？」「あなたにとって絆とは？」と意見が出される。

教師は、その様子を見て

『いいよ。次進めて。』

と声をかけ、他の班の方へ移動する。

(ここまで8分)

ストップ モーション

教師は、Bの班に留まってアドバイスをしていたが、異例の事なので、生徒も普段と違う印象をもったかも知れない。しかし、教師がアドバイスをすると、Bが話し出す事ができたので、効果的な働きかけであった。

班のメンバーが、積極的に話し合いを進めていく。その間、Bは黙って話を聞いている。しばらくして、教師がやってきてBに小声で話しかける。Bは、「言葉選びの基準ですけど、どうしますか。」と班のメンバーに聞いてみる。班のメンバーがそれぞれ答えたことを、Bは、ワークシートに記入していく。記入し終わると、また進め方に戸惑っている様子で沈黙する。この間、他の班の生徒が3人、アンケートを取りに来る。

(ここまで18分)

ストップ モーション

司会の仕事不明確であったため、Bが戸惑ったと思われる。プリントに仕事内容を書くなどして、具体的に細かく指示を出した方がよかったかもしれない。

教師が再びやって来て声をかける。

『進めなきゃ』

Bは、「言葉選びの基準はこれでいいですか。」と班のメンバーに聞いてみる。そして、「漢字辞典使えますか。」と教師に相談する。教師が『使いたいの？』と確認すると、はっきり「はい。」と答える。教師は、『じゃあ取ってきます。』とその場を離れ、漢字辞典を持ってくる。Bは、辞典を受け取ると、すぐに使い始める。

(ここまで21分)

ストップ モーション

司会等、話し合いを上手く進めていく事の苦手であるBにとって、辞典が逃げ道にもなっていたように思われる。

Bが辞典を使っている間、班のメンバーは、話し合いを進めていく。教師がやって来てBと話す。Bは辞典で見つけた「絆」の意味を教師に話す。教師は、それをみんなに話すように促す。

「絆って糸で結ばれていること…」と話すと、班のメンバーが「それ、どっかで使おうよ。」と声を上げる。Bが、「どこで使いますか。」と尋ねると、根拠2で使おうということになる。さらに「語源は何？」と聞かれると、Bは再び辞典をめくり始める。 (ここまで28分)

ストップ モーション

班のメンバーに発言を認められた事は、Bにとってよいことであった。何をどう使って調べればよいのか明確になっていると、生徒の活動がより活発になったと思われる。何もない状態から形作っていくのは難しい。活動

の自由度が高い授業であれば、いつでも参考にできるような考えるための資源（リソース）が教室の中に散らばっているとよい。



班の子から「語源あった？」と聞かれると、Bは「綱で…」と説明するが、聞き取りにくかったらしく、「辞典貸して。」と言われる。使っていた辞典を渡すと、別の辞典を調べ始める。教師がやって来て、『さっきの忘れちゃうから（ワークシートに）書いたほうがいいと思う。声かけるのよ。』と指示する。Bは、「じゃあ、書いてください。」と班のメンバーに声をかける。再び、「絆」の意味を辞典で調べ、「断つに忍びない…」とつぶやく。このあたりから、班の他のメンバーが話し合いを進め始め、発表の分担を決めていく。「ここBでいい？ 大丈夫？ ここ言ってくれる？」と尋ねられると、Bは「ああそうだね。」と同意する。 (ここまで36分)

ストップ モーション

周りの生徒からの支援が感じられた。生徒相互では意思の疎通ができていたようであった。

教師がやって来て『司会進めてる？』と進行を促す。Bは、「選んだ言葉の紹介をしてくれる人？」「言葉選びの基準をしてくれる人はいますか？」「絆についてのアンケートをしてくれる人？」と分担を聞いていく。「根拠2をしてくれる人？」と問いかけると「B君がいい。」と言われ、「じゃあそうしよう。いいですか。」と発言する。分担が終わると「じゃあ、それぞれ書いてください。」と、プレゼンテーションのボードを作り始めるように指示する。

Bが、ボード作りの作業になかなか手がつかずにいると、班のメンバーが「ここらへん、書けば。」とアドバイスする。Bは、「そうか、そうか」とつぶやいてボードを作り始める。